

外に新品種や學名の新組合もあるがこれらは省略した。最後にタウヤマヲダマキ、タカネヒエンサウ、ムレイサウの3種が立派な銅版3枚に納められてゐる。(田川基二)

鍾補求氏：— 中國桔梗科植物之初歩研究 (P. C. TSOONG, Preliminary Study on Chinese *Campanulaceae* in Contributions from the Institute of Botany, National Academy of Peiping Vol. III No. 3 (1935) pp. 61-118 with 12 plates).

支那の桔梗科の研究はあまり注意されてゐなかつたので、著者は在支の方々の腊葉庫を研究してまわつて、この論文には 91 種を擧げ *Adenophora*, *Codonopsis*, *Cyananthus* に 5 新種と 1 變種とを發見した。更に本草書の漢名に羅典學名をあてゝゐるのは面白く、卷末に植物名實圖考の繪に學名を附記してゐるのは本邦本草學者には頗る喜ばれるだらうと思ふ。尙植物地理にも言及し 34°—35° N. lat. で南、北、にこの科の分布が分かたれると云ふ。支那に於ける暖、冷の兩植生を分けるのは秦嶺山脈なりと云ふ。蒙古のアルタイ山脈は興安嶺に類似し共にシベリアの植生に近縁である。然るに天山山系は小亞細亞に類似すると云ふ。南支那を分けて 1). 西藏より西部雲南をふくみ 102° E. long. あたり迄を高山地帯とする。こゝで多くの支那産の重要な屬が最高の發達をなしてゐる。これは印度と類縁がある。2). 中部地帯といふのは 1) の東部より 115° E. long 迄で、Diels の Central-China に貴州、湖南、廣西、廣東の大部分を含めるものである。こゝの植生は高山植物と亞熱帶植物の混合であると云ふ。3). 南支那海岸地帯は其の残りであつてこゝは桔梗科植物は少ないと云ふ。

Adenophora の分類には花柱の盤及び萼筒の形ちが特徴となり萼片の形も役に立つと云ふ。*Adenophora marsupiflora* FISHER = *A. coronata* DC. は長い盤が特に目立つてゐる。その盤に毛が生えてゐるといふから日本にはこんな植物はない。*Adenophora longisepala* TSOONG (四川省)、*A. pumila* TSOONG (Hsikang) が新種である。ソバナは南支では日本や北支那と變異を異にすると云ふ。

A. verticillata と日本産のツリガネ=ンジンとの圖を出してゐる。*Codonopsis* では *C. cordifolioidea* TSOONG (雲南省)、*C. argentea* TSOONG (貴州省) が新種であり、*Cyananthus* では *C. pseudo-inflatus* TSOONG (Hsikang) が新種である。精細な圖とは云ひえぬが多數の花部の圖とまづいけれども、寫眞も新種にはつけてある。支那名を擧げると、沙參(救)、(考)、*Adenophora elata* NANNF., 杏葉沙參(救) *A. latifolia* FISCHER.?, 細葉沙參(救)、(考)、*A. paniculata* NANNF.?, 薺萐(考) *A. remotiflora* MIQ.。桔梗(救)、(考)、*Patycodon grandiflorus* A. DC. 黨參(考)、*Codonopsis pilosula* NANNF. 珠子參(考) *C. Forrestii* DIELS, 奶樹 *C. lanceolata* BENTH. et HOOKER., 金錢豹(考) *C. deltoidea* 又は

C. micrantha CHIPP., 土黨參(考) *Campanumoea javanica* BL., 半邊蓮(考) *Lobelia radicans* THUNB., 銅錘玉帶草(考) *Pratia begonifolia* LINDL. (救) とは明周定王朱櫛救荒本草農政全書本。(考) とは清吳其濬植物名實圖考の略。 (北村四郎)

ボロフ氏：— **ハシバミ属の話と分類** (E. G. BOBROV., Histoire et systématique du genre *Corylus* in *Sovietskaia Botanica* 1936 No. 1 pp. 11-39).

主として露文で書いてあるが重要な分類學的の事柄は羅典文である。ハシバミ属 19 種について系統を示してある。其の各種は羅典文の検索表がついてゐる。

Subgenus 1. **Acanthochlamys** (SPACH) BOBR.

1. *Corylus ferox*. WALL. 2. *C. tibetica* BATAL.

Subgenus 2. **Phyllochlamys** BOBR.

Sectio **Diphyllon** BOBR. 3. *C. colurna* L. 4. *C. avellana* L.

5. **C. Potanini** BOBR. sp. nov. ex China, prov. Sutchuen. (圖入)

6. *C. heterophylla* FISCHER **オホハシバミ**. var. *Thunbergii* BLUME この中に var. *yezoensis* KOIDZ. と var. *japonica* KOIDZ? *C. yezoensis* NAKAI を異名として入れてゐる。

7. *C. americana* WALT.

Sectio **Monophyllon** BOBR. 8. *C. maxima* MILL. 9. *C. pontica* C. Koch. 10. *C. colchica*.

Subgenus 3. **Siphonochlamys** BOBR.

11. *C. yunnanensis* A. CAMUS. 12. *C. papyracea* HICKEL. 13. *C. chinensis* FRANCHET

14. *C. Fargesii* C. K. SCHN. 15. *C. manshurica* MAXIM. **オホバツノハシバミ**

16. *C. brevituba* KOM. 17. *C. californica* BOSE 18. *C. Sieboldiana* BLUME **ツノハシバミ**

この中に *C. rostrata* var. *mitis* MAXIM. コツノハシバミ及び *C. hallaisanensis* Nakai ツボハシバミを異名として入れてゐる。 19. *C. cornuta* MARSH.

Hibrids

1. *C. avellana* × *colurna* REDER. 2. *C. avellana* × *chinensis* REHDER 3. *C. avellana* × *tibetica* RHDER. (北村四郎)

張肇騫氏： **中國菊科新種類** (Chao-chien CHANG, *Compositae Novae Sinensis* in *Sinensia* Vol. 6. No. 5 1935 pp. 541-550).

本論文は支那の菊科の新種を發表せるもので斷片的報告である。内容は標品を見ぬ筆者には云々する事をせぬが既に古き名あるにもかゝらず、同名を重複さして用ひるのは頗る遺憾である。其の種名と産地を擧ぐれば、*Aster simplex* CHANG (抄録者曰